

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2013.12 vol.92

平成25年度 循環器病看護エキスパートナース研修を開催して

鹿児島医療センターは、循環器病、がん、脳卒中を三本柱として病む人の立場に立った医療を提供しています。今年度も10月21日から10月30日までの8日間、循環器病看護エキスパートナース研修（国立病院機構九州ブロックからの委託事業）を開催いたしました。循環器病看護の質向上を図るため、個性を踏まえた水準の高い看護実践のできる人材育成と循環器病看護においてリーダーシップを発揮できる人材育成を目的として研修を行いました。研修生は、九州管内10施設13名の参加で、循環器病看護実践の役割モデルとしての資質を持ち、エキスパートナースとしての自己の課題を持って研修に参加していました。

九州管内の各施設から参加する研修生に対して「お・も・て・な・し」の気持ちを添えて研修初日に絶好のロケーションが楽しめる当院の8階ラウンジで懇談会を企画しました。院長、看護部長、講師の方々、看護部、事務部から多数の参加で緊張気味の研修生も徐々に会話が弾みました。恒例の鹿児島ご当地クイズでは、チーム力を発揮し鹿児島の食文化や歴史について答え、正解に一喜一憂する等楽しい時間を過ごすことが出来ました。

研修内容は、虚血性心疾患、心不全、不整脈、肺高血圧の治療や看護、心臓血管外科の最新治療、心臓カテーテル検査、心臓リハビリテーション、循環器疾患患者の看護、救急看護、フィジカルアセスメント、他職種協働による退院支援等の講義を行いました。講義は公開講座とし、鹿児島県内の地域医療連携機関からの188名の参加者が、熱心に受講していました。講師は院内の医師、慢性心不全看護認定看護師、集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師、糖尿病看護認定看護師が担当しました。また、鹿児島大学医学部保健学科教授 堤由美子先生による「危機的状況にある患者の看護」の講演と事例検討では、患者が病気を受容していく過程を理解し支援していくことの大切さを学ぶことが出来ました。

手術室、心カテ室、救急外来、心リハ室、MSCでの見学実習とICU、心臓血管外科病棟、循環器内科病棟での実習を行いました。当院のエキスパートナース後期生が実習指導を担当し、受け持ち事例のフィジカルアセスメントや患者家族の心理社会面での支援や退院指導の実際を見学し、生涯コントロールする為の支援を考える機会になりました。

研修終了時、研修生から「循環器疾患の病態生理や看護を専門的に学ぶことができた」「他施設の人とのネットワークが広がった」「自己の看護を振り返る機会となった」等意見が聞かれました。また、「鹿児島のシンボルでもある桜島も見ると捉え方は様々です。患者様や家族に対しても一方向だけでなく、広い視野を持ち多角的な視点で看護できる看護師を育成することが大切です」と、看護部長より研修のまとめの助言に参加した研修生は、感銘を受けていました。

研修初日の緊張した表情から、最終日は無事に研修を修了した達成感と今後の課題に向けた決意が感じられました。今回の研修での学びを各施設の臨床の場で生かし、循環器病看護の実践リーダーとしての活躍を期待しております。

（文責：看護師長 鮫島 明子）



「第62回おはら祭り」

私たち鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校の自治会員185名は、11月3日に開催されたおはら祭りの総踊りに参加しました。

おはら祭りにむけて、私たちは9月から昼休みの時間を調整して練習に励んできました。みんな踊りを覚えるのが早くて、思っていた以上に仕上がりが早いと感じていました。しかし、個人個人は踊れていても、全員が息を合わせることができず苦勞しました。そこで、友達同士で教えあったり、おはら祭りの実行委員が付き添いで踊ったりして連日練習を重ねました。11月に入ると、音に合わせるだけでなく、徐々に互いの心がつながるような一体感も生まれてきました。

本番当日は天候が心配でしたが、願いが届いて小雨決行となりました。おそろいの赤い法被と紺の法被を身にまとい「踊りはじめ」のかけ声とともに踊り始めました。一斉に息を合わせて踊り始めた瞬間は、何とも言えない感動でした。その後は、全員がリラックスして練習の成果を笑顔で発揮できたと思います。先生方も私たちの近くで応援してくださり、とても励みになりました。南日本銀行から文化通りを踊りきった時には、参加者全員が達成感に包まれているようでした。

今回のおはら祭りでは、日頃お世話になっている地域の方々や、実習で受け持たせていただいた患者や家族の皆様へ感謝の気持ちをお伝えしたいという気持ちで踊りました。おはら祭りに参加を通して、自治会員と手を携えて成し遂げるといふ「団結力」「チームワーク」「達成すること」の大切さが分かりました。

来年も自治会員メンバーが元気に踊りますので期待してください。これからも応援よろしくお願ひします。

(文責：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 おはら祭り実行委員長 今別府 薫伽)



「お祭り」に参加して

11月の2日(土)、3日(日)と鹿児島市にて南九州最大のお祭り「第62回おはら祭り」が開催されました。当院は昨年に続き11月2日夜祭りに医師、看護師、コメディカル等様々な職種約200名で参加いたしました。

6月に参加申し込みを行い、7月から院内での話し合い、参加呼びかけを行いました。踊りの練習については、外部から講師の先生を招き、祭り当日までに3回の合同練習を行いました。練習当初はなかなかうまく踊ることができず苦労しました。練習を重ねた結果、リズムが合うようになり、徐々にお互いの心がつながるような体感を感じるようになりました。練習をしていく中で、みなさんの本番に向けての気持ちも高まっていったように思います。

当日は朝から天候が悪く、中止にならないか心配でしたが、無事本番を迎えることができました。まずは、1階フロアにて入院患者さんへ踊りをお披露目した後に、タカプラ前に集合しました。踊りが始まると、雨が降っている中での踊りでしたが、みんな楽しそうに踊っていました。自由踊りの頃には最高潮に盛り上がりました。踊り終わった後には、全員で成し遂げた達成感を感じることができました。

今回参加して鹿児島医療センター職員とのチームワークや団結力を感じることができました。そして、院内でのお披露目時の患者さんの笑顔を見ると、それまでの苦労も吹き飛び、来年もまた参加したいという思いになりました。

(文責：外来係長 竹田津 雄介)



看護学校祭「愛祈祭」を終えて

11月1日、「SMILE～笑顔は人を幸せにする」をテーマに平成25年度第20回看護学校祭を開催しました。今年度は学校祭20周年の記念として、在校生・卒業生・地域の方々これから学校と学校祭を愛してもらい、親んでもらいたいという願いを込め学校祭の名称を募集しました。「愛祈祭」の由来は校歌にある「愛の祈りを」というフレーズと学校の教育理念である「ヒューマンケア」の精神からです。名称が決定すると様々な場面や場所で「あいささい」という声が聞かれ、自分たちの学校祭だなと感じました。

学校祭の準備を進めるうえで困難であったのは企画でした。最初、企画を考えると自分たちのための企画であり、誰にみてもらいたいのか誰に伝えたいのかが絞り込めていませんでした。各担当する部門でも話し合い、企画の問題点を相互に意見交換する中で連携ができ、「愛祈祭」を成功させようという皆の思いが深まってきました。

平日の学校祭であり、来場者が少ないのではと思いき、ポスター掲示・回覧板・新聞の折り込み・公開講座そして地域清掃活動と地道なPR活動を行いました。結果、100名を超える方々の参加がありました。参加した人が学習できてよかったと思えるような内容にと「高齢者の健康」というテーマと「食」「運動」「社会福祉」「心理的特徴」というサブテーマで3学年合同のポスター発表・グループワークを行いました。又、例年、地域の方々人気の健康チェックを行い、次年度以降も看護学校祭にお元気で来ていただきたい思いも込め、又自分の身体の状況を知って健康について考えてもらう機会として健康手帳を作成しました。和太鼓の演奏・コーラスの合唱などの長年先輩たちから受け継いだ活動の発表もありました。高良ビードバンドの方をお招きして学生との交流の中で20周年を一緒に盛り上げることができました。

来場された方々と学生の中で、今回のテーマにもある「スマイル～笑顔」をたくさん見ることができ、充実した学校祭を終えることができました。次年度に向けて、企画した内容・方法でよかったことは更に工夫し、問題点は改善していきたいと思います。又、学校祭とおして3学年が交流できる機会を活かし成長していきたいと思います。

(文責：2年 山代 真弓)



平成25年度

初級者臨床研究コーディネーター養成研修に参加して



平成25年度初級者臨床研究コーディネーター養成研修に参加し、6月の第3週に1週間、国立病院機構本部で講義を受け、さらに7月の第3週に1週間九州がんセンターにて実習を受けてきました。治験のいろはから実践に至るまで、短期間ではありましたが、本部の治験推進室の方々をはじめ、現場のCRCの方々に多くのことを学ばせて頂きました。

主な内容としては、質の高い臨床研究・治験を実施するために各職種CRCの得意分野を最大限に生かす必要性や、治験においても国際化が進みスピード・質共に求められているための今後の体制作り、そしてこれらを支えるCRCは医師と共に今後の臨床研究・治験を支える重要なポジションとなる必要があることなどが話されました。中でも、1番印象に残ったのは現在浸透しつつあり、企業側も治験の精度を上げるために推奨してきている、信頼性の高い原資料に求められる要件である『ALCOA』という原理について学んだことで、初めて知る用語だったこともあり、内容共に新鮮な学びでした。ALCOAとは Attributable (帰属/責任の所在が明確である)、Legible (判読/理解できる)、Contemporaneous (同時である)、Original (原本である)、Accurate (正確である) の略ですが、日本において、未承認薬における海外との申請許可に差があるドラッグラグの解消に向け、グローバル治験への参加が増加している中、海外での申請にも対応できるためのグローバル標準が原資料にも求められてきていることから、欧米では基本的要素であるこのALCOAの原理が治験をめぐる環境の変化により本邦においても求められてきているとのことでした。

グローバル治験の参加が増えている中、このように質の高い治験が求められてきていることも踏まえ、病気で苦しんでいる患者さんに優れた医薬品をいち早く届けることができるように、治験・臨床研究コーディネーターとして患者さんの安全を何よりも第一に考え、また、信頼性の高い治験を推進していくために、医師やその他治験に携わる院内スタッフの方々に、信頼のおけるデータ取得の必要性を伝えていくことやその支援をしていく義務があると思います。

治験はGCPという一定のルールの下、厳密な計画書に沿って実施する必要があり、通常診療よりも検査の項目、回数が多く、入院・外来など他部門に渡りますので、院内スタッフの方々にご協力頂く機会が多々あるかと思いますが、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。今回の研修を通じて、得た知識・技能は現在業務にも取り入れつつありますが、さらに今後の治験推進に向けて役立てていけるように精進していく所存です。

(文責：治験管理室 高山 知子)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・永重・重吉・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

